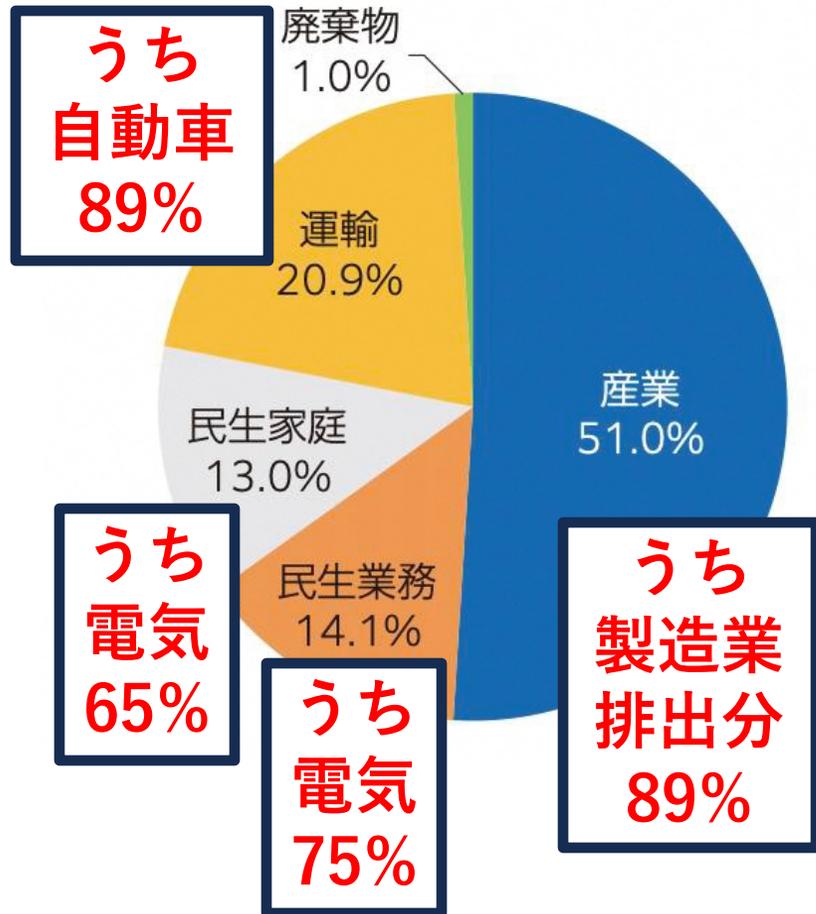


カーボンニュートラルがほぼ実現された世界

【2018年度 部門別
温室効果ガス排出割合】



- ① 工場（製造業）の電力を全て再生可能エネルギーに転換する。
- ② 第3次産業の電力を全て再生可能エネルギーに転換する。
- ③ 市内全世帯の電力を再生可能エネルギーに転換する。
- ④ 市内全自動車を電気自動車にして、再生可能エネルギーで充電する。

電力を全て再生可能エネルギーにした場合

2018年度比で、

合計 82.8%削減!!!

* 残りは森林吸収等で100%（ゼロカーボンシティ）達成

内訳

① 産業部門	$0.51 \times 0.89 = 0.4539$	<u>45.3%</u>
② 民生業務部門	$0.141 \times 0.75 = 0.10575$	<u>10.5%</u>
③ 民生家庭部門	$0.13 \times 0.65 = 0.0845$	<u>8.4%</u>
④ 運輸部門	$0.209 \times 0.89 = 0.18601$	<u>18.6%</u>

市内電力を全て再エネ化するコスト

- ① 洋上風力発電で全て代替する場合 5914億円
- ② 市内全自動車を電気自動車に買い替える場合 488億円

合計すると、**25年間で少なくとも6400億円以上**

①の内訳 洋上風力発電所建設のコスト

秋田市30万人の家庭電力を賄うために1000億円
→上越市18万人の家庭電力を賄うには600億円

上越市の民生家庭部門の電力割合は8.4%
→上越市全体は82.8%で
 $600億 \times 82.8\% / 8.4\% = 5914億円$

②の内訳

令和4年3月31日時点で上越市の全自動車数 10858台
電気自動車のボリュームゾーン 400万～600万円/台

1台450万円と仮定して、
 $10858台 \times 450万円 = 488億6100万円$

洋上風力発電のアピール（1）

1. 収益性

- ・ 100%民間出資で市の財政負担なし。
- ・ 電力会社の収支も堅調。

2. プロジェクト管理

- ・ 国の制度通りにスケジュールは進行。
- ・ 20年を一区切りとし、運用開始2年で目立った故障なし。

3. 環境への負荷

- ・ あえて言えば騒音と景観だが、ほぼなし。騒音は工事期間の1、2週間のみ。景観は古くからの景観に愛着ある少数の方に抵抗感。
- ・ 漁業資源は工事による影響がほぼなく、かつ、漁業者は手厚く補償されるため、漁業を生業にする方から市へのクレームはなし。

洋上風力発電のアピール（2）

4. 雇用創出と経済効果

- ・誰でも知っている会社の支社が上越にでき、技術系で安定した、高給の雇用（数十名）が創出。
- ・設備メンテナンスで1、2割のお金が地元落ちる。

5. 卒原発と安全保障

- ・原発の代替として魅力あり。
- ・備品の6割を国産化してエネルギー安全保障を目指す計画あり。

6. 国策としての推進

- ・石破首相、脱炭素電源豊富な地域での産業集積進める方針（2024/12/26 読売新聞オンライン）
- ・RE100企業の誘致が可能に。



**「ただの風が雇用を生み、お金を運んでくれる」
「50年以上続く、永続性のある仕事」**